

有限会社早島金型

直接加工による金型の修理技術を追求

汎用フライス盤を導入



金型業界の便利屋的存在として、顧客の困りごとに対応する

有限会社早島金型は昭和53年に創業、平成2年に法人化し、ものづくり企業が集積するテクノパーク総社で金型専門メーカーとして事業を営んでいる。アルミ鋳造金型を中心にダイカスト金型、プレス金型、プラスチック用金型など各種金型の設計・製作を行っている。

同社は同業の金型メーカーの各種金型や治工具の製作を手伝うという独自のスタンスで事業を展開。地元金型業界の便利屋的存在として事業基盤を確立している。さまざまな金型の製作技術を持つことで顧客からの一括受注に対応するほか、金型の使い

分けや最適な素材に関する提案も行う。また、高精度が求められる表面加工においても、材料に応じた刃の選定、刃と材料の合わせ方、切削油の種類の選定、加工速度の制御、温度伸縮を踏まえた加工精度の確保など、多くのノウハウを持ち合わせている。

技術の変化に対応して、同社ではNC工作機械による切削加工技術や3D-CAD/CAM、マシニングセンターによる三次元切削加工技術を確認し、顧客の品質要求に応じてきた。一方で金型の修理やメンテナンスの依頼が急増し、短納期化の要求が高まっている。そこで汎用フライス盤を導入し、対応に取り組んだ。

導入背景

修理に適した機械が必要

金型を量産する際にはNC工作機械やマシニングセンターが適しているが、単品の金型の修理には向いていない。手作業で直接加工ができる汎用フライス盤が適している。現物を見ながら、どの寸法を生かすかなどを検討し、面に沿わせて摩耗や欠損を修復していく。直接加工を行うには微妙なさじ加減が必要で、技術を習得するための人材育成も視野に入れている。

実施内容

機械導入と人材教育

単品金型の修理やメンテナンスを行うための汎用フライス盤を導入し、作業者を一人確保する。汎用フライス盤はハンドル操作による直接加工ができるほか、プログラムが不要な数値入力システムで決められた形状の加工も可能になる。また、作業者に対する教育体制の構築を図り、汎用フライス盤による加工の作業手順書の作成、切削工程の教育計画などを行う。

事業成果

人材育成に手応えを実感

汎用フライス盤の作業者としてマシニングセンターの操作経験者を確保し、OJTでの指導で成長に手応えを感じている。ひと通りの加工ができるようになれば、マシニングセンターの担当者と交代させる。マシニングセンターの担当者が汎用フライス盤の基本的な技術を身に付けて、再びマシニングセンターの担当に戻った時は、考え方の引き出しが増えて機械の使い方が変わる。



企業から一言

量産だけではないものづくり。そのための人づくりに挑戦

「金属を持ってこられたら何とかする」。先代社長のこの言葉を基本に、お客様の困りごとに対応してきました。例えば製品の切り替え時が近いので、今の金型を修理して使いたいといった要望があります。摩耗部分や不具合箇所はどう対処するか。それは数値を入力して機械加工で解決できるものでは

なく、現物に向き合い手作業による感覚で答えを出すものです。昔の機械に近い汎用フライス盤を入れて、使いこなせる職人の育成に挑戦。価格やスピードの競争だけではない、ものづくりのあり方を続けていくことが目標です。

取締役社長 安田 英世



事業者の概要

代表者名	代表取締役 茅野 利夫
設立年月	平成2年4月
所在地	〒719-1121 岡山県総社市赤浜500
TEL/FAX	TEL.0866-92-9305 FAX.0866-94-1105
URL	http://watakushigoto.jp/empathies/detail/92
資本金額	500万円
従業員数	7人
業種	生産用機械器具製造業
事業計画名	熟練切削加工技術の蓄積・活用による、金型修理の短納期化